

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501418		
法人名	有限会社 すずらん		
事業所名	グループホーム潮風		
所在地	三重県津市阿漕町津興214-2		
自己評価作成日	平成23年10月10日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470501418&SCD=320&PCD=24>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成23年11月11日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者本人だけでなく、御家族の方も含めた大家族だと捉えている中で、日常的に御家族の訪問があり、入居者の方を中心に職員とも、ざっくばらんな関わりをもって頂いている。気軽に寄って頂ける、オープンで家庭的な雰囲気が自慢です。終の棲家として、ターミナルケアについても主治医の指導を基に、御家族、職員が心を合わせて、ご本人に寄り添う中で、心穏やかに終末を迎えて頂いている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員全体が一体となって取り組んでおり、利用者との親密な関係を築き、職員として働いて楽しいという職場になっている。その取り組みが地域との深い関わりを生み出しており、家族もグループホームの運営に深い信頼を寄せ、災害時には協力する体制が出来上がっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個々の尊厳を第一とする中で心通い合う介護笑顔あふれる暮らしを大切にする、という基本理念を前職員が共有、思いをひとつにした対応をしている。個々の気持ちに寄り添う事で我が家にいるようにゆったりと落ち着いて過ごして頂いている。	—その人をその人らしく、心かよいあう介護—という理念のもとに、職員全体がまとまった取組みを行っている。日常から、利用者にも職員同士にも仲よく、にこにこ、笑顔で接するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方、自治会、子供会、保育園、幼稚園、介護施設、病院関係者、民生委員等との交流を通して双方の理解を深めている。地域の中での潮風を認知して頂く中で、お互いが地域力になるよう努めている。	自治会に加入しており、地域の人達たちは気軽に出入りし、交流の機会としている。交流は始終であり、子ども会行事もこのグループホームでしている。しかし認知症PRの企画には人が集まらず、なかなか浸透しないのが悩みである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会、民生委員、認知症を抱える家族等へ働きかけ、地域の中にいつでも相談できる窓口として気軽に立ち寄り頂けるようにしている。認知症の特性、支援方法をその都度の困り事へと繋げたり等、相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	潮風の現状を知って頂く中で、地域等との相互の連携、協力体制を構築していける貴重な機会となっている。地域、行政、家族等も含めたこの機会を認知症サポーター養成講座等の学習の機会へと繋げている。	一昨年から定例化し、偶数月第3金曜日に実施している。1～2名であるが家族も参加している。テーマは運営の現状、行事、災害対策、利用者の状況(固有名詞は避けている)等である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常的に質問、相談等に乗って頂き、その都度詳細なアドバイス、指導等頂いている。細かな事でも気軽に相談できる場としてとても心強い。	担当職員がよく変わるので困ることもあるが、担当職員とは気さくに話し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等、行動を制限する行為は指定基準で禁止されている事、その具体的な例を挙げ説明したり、マニュアルを用いて職員全員に徹底している。危険を回避する為の個々に応じた方法は家族を含め、その都度最善な方法を検討している。	以前は徘徊対策や不審者対策から、カギをかけていた。その後、職員や行政担当をはじめ、外部評価調査員ともさまざまな議論を重ね、2年前から鍵をかけないことにし、ドアの自動ロックは手動にした。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法律の内容、課題背景等を示し虐待のない介護の徹底をしている。又利用者の介護リスクを全体の問題として捉え、介護ストレスが虐待に連鎖しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状では対象者はいないもののそのしくみについてはマニュアル等で理解している。必要に応じて対応可能となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居にいたるまでのプロセスの中で、ご本人御家族の思い、要望等を十分に伺い話し合いを深める。施設とご家族が思いをひとつにした支援へと、相互理解をした上での契約としている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中で、意見等を引き出しやすいように声かけしている。面会の際には近況報告と御家族のその都度の思いを聞かせて頂いている。ご本人の状態等を示しながら、意見の実現に向けた取り組みをしている。	家族はそれぞれ事情はあるが、始終来訪しており、来れば3～4時間は利用者や職員と話合っている。特に要望は出ておらず、多くはありがとうと言ってくれる。9月の台風で市役所に避難したが、ある家族はパンと飲み物を差し入れてくれた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で、意見交換を密にして反映するようにしている。情報共有ノートを通じてその時々々の意見や提案、困りごとについてを記入、日常的に活用している。	日々の申し送りで話し合い、各自が情報共有ノートに書き込み、全員がサインして確認合っている。食事上の注意事項が職員から出ると、パソコンで作成した印刷物を手渡し、ノートにも貼り付け注意を促している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	苦手分野ある職員には力量のある職員及び管理者が常に克服に向けてサポート、自信を積み上げの中で、自信のモチベーションが高められるように支援している。又頑張った職員が報われるような賃金体系になるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量が高められるように、その都度可能な方法で資質向上に向けた指導、内部学習に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ協議会、地域密着型サービス協議会、介護福祉士会、認知症と在宅介護を考える会等に所属、又他のグループホームや医療生協等とも交流し研修の機会としたり資質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントした情報を含めた中で、ゆったりと傾聴し本人の気持ちを引き出している。、本人の願いや希望等を把握する中で、具体的な生活の方法を話し合い、信頼関係を築いていけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設利用にいたるまでの苦悩について、ゆったりと傾聴する中で不安に思っている事、求めている事を把握していく。本音が吐き出していただけ ような雰囲気作り、信頼関係作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	表面的な訴えだけに捉われることなく、会話の中から問題点を把握するように心掛け、相談を傾聴する一方で、専門職としての見解を示し改善にむけた必要な支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など、できる事は協働で行い、共に仕事をする中で人生の先輩として学ばせて頂く事も多く、そのような機会を通して自信の回復、又生活力の喚起に繋がるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	潮風を実家のように捉えて頂いている。日常的に気軽な出入りをして頂く中での交流は、潮風家族の一員である。特に終末期のケアを実施する中では思いをひとつにして、御家族の気持ちに寄り添った支援をおこなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望、御家族の意見をお聞きながら、今までの本人を取り巻く環境等を勘案する中で出来る限り、入居までの関係を大切にしている。	以前は遠くから入居する人もいたが、最近では近隣から入居するので馴染みの関係は継続している。そのため近所の友人、知人が来訪することも多くなっている。家族は遠方に住む人もいるが、毎月のように来訪している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の性格、趣味、職業など今までの生活環境等を勘案する中で、身体状況、相性等を配慮しながら、おひとりおひとりに合わせた側面的な支援をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方、ターミナルケアにて退所となられた方等を含め、ほとんどの御家族の方と現在も日常的に交流している。相談に來られたりすることもあり、その都度解消に向けた支援をおこなっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントした意向の中から、又御家族の話の中から本人のしたい事、どう生活したいと思っているかを把握し、本人にとっての最適な方法を引き出していけるように支援している。	利用者と職員は家族のような関係になっており、互いに言いたいことを言いながら、その人なりの気持ちを掴むようになっている。その結果、入居前は家族を困らせたり、暴力を振るった人が次第に変わり、穏やかになってきている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やご家族の情報によりいままで慣れ親しんだ暮らし方を把握するように心掛け、生活に反映されるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の暮らし方に応じた日課の中で、生活の喚起を図りながら、職員はさりげなく側面的な支援を心掛け、その時々々の希望を取り入れた生活が可能となるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族がどのように生活していきたいと思っていられるか、職員は細かな状態に応じた支援方法の検討を日々重ねながら、十分に話し合いを深め、本人らしい生活の実現に向けたプランニングを考案している。	一応6カ月毎に見直すが見直すが、実際はその時々々の心身状態の変化に応じて見直している。職員は担当制で、常勤が中心になり利用者の言動から本音を探り、モニタリングした事を記録していく。それをケアマネジャーがケアプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を基本に捉える中で、リスク管理するため等に必要な、情報の共有、特記の記録、個々の状態に応じた細やかな援助方法を情報ノートとして常備する中でフルに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人がその人らしく暮らせる、個々に合わせたオンリーワン支援を工夫している。ご家族との交流も深く、その都度最適な方法を御家族と話し合いながら、柔軟な対応が可能な環境となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会、民生委員、医療福祉関係者、子供会、保育園、幼稚園等との交流を通して社会性の充実を図りながら、入居者の安全と安心して暮らせる環境を作り、楽しんで生活して頂けるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の入居者、御家族のご意向を反映した上で、協力医による定期往診及び24時間対応による随時の相談、往診体制をとっている。	協力医が定期的に住診するので、多くはその時に受診する。しかし眼科、泌尿器科、心身クリニック等特定分野は以前からの主治医に受診しており、家族が同行するか、又は職員が同行したりしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医院の看護師には、日常的に相談している。医師の所見等を含めたアドバイスがその都度あり、とても安心感が持てる体制を構築している。又地域の看護師との交流も多く情報交換も密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御家族、医師、看護師、ソーシャルワーカー、病院関係者との交流を日常的に行う中で、そうした時に最適な対応が出来るような、関係作りを構築するように心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、日頃からご家族、主治医との話し合いを重ねながら備えている。並行して個々の終末期のあり方についての情報を職員間で共有、最適なターミナルケアに向けての意思統一を図っている。	平成18年度以降、7人のターミナルケアに取り組んだ経験をしている。ほとんどは老衰であった。管理者が適宜協力医に状況報告し、その指示を仰ぎ対応している。吸痰ができないので綿棒を使って去痰をしたり、痛みを訴える人は入院してもらったりした。多くの家族は穏やかな死に際を求めており、その要望に沿って取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個々の身体状況については、各職員が日常的に把握し、予測される事態に備えている。一方であわてず的確な行動、適切な対応が(応急処置等を含む)が可能となるよう学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難方法は、マニュアル化して施設の要所要所に掲示している。又いち早く避難出来る方法を生活の中で実践している。又運営会議等を利用して、その時々入居者状況等を知って頂き、緊急時の協力を繋げている。	昨年10月に避難訓練(夜間想定含む)したが、その後はしていない。9月の台風では市役所に連絡し、駐車場に避難した。地域の防災会議に参加し、職員と始終防災と避難方法を話し合っている。家族が空き店舗を避難場所に提供してくれている。	防災と避難についていろいろと工夫されているが、避難訓練が定期化していない。話し合いのみでなく、避難訓練が職員の体に染み付くように今後取り組まれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライバシー、プライド、人格の尊重については、職員間で十分意思統一を図り、個々に応じたその人にふさわしい対応を心掛けている。	誰も自分のニーズを口に出さないで、普段の会話・行動からニーズを感じとっている。個室の扉は普段開けているが、来客時には全て閉めており、運営会議や報道関係には固有名詞を伏せている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に寄り添いながら、その時々のお思いを共有、共感する中で意思表示しやすいように側面的な働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が自信を持って生活出来るよう、職員はさりげなく側面的支援を工夫している。その日の身体の状態や気分、希望を取り入れた過ごし方が可能となるような支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着心地、着脱等を優先する中ではあるものの、色等ご本人の好みを反映するようにしている。又アクセサリ、マニキュアなど、希望に合わせて職員と一緒に選んだり、お手伝いをしながら楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養だけに捉われず、その日の入居者の希望等も取り入れ食事が楽しみとなるよう献立を考えている。又大家族のように同じテーブルを囲み会話しながらのひと時も、楽しみな、又貴重な時間となっている。	食材は主として管理者が購入する。調理は職員が交代で行うが、メニューはその時の利用者の好みとそこにある食材を勘案して決めている。また、果物の切り方等、その方の食べやすい様に対応しており、目先を変えた献立等も工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー、栄養配分、水分量、好み、又主治医等の意見を勘案する中で、個々の摂取の目安を決めて対応している。個々の口腔機能、好み等を配慮する中で、食事を楽しみとして頂けるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず残渣物を除去、嚥下困難な方には、その都度、必要な口腔ケアを実施している。朝夕の歯磨き、うがい、口腔内の洗浄、義歯は洗浄し夜間ミルトン消毒している。個々に応じた方法で口腔内の清潔保持をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のある方、ない方を問わず自然な排泄が可能となるように、特別な事情がない限り、日中はトイレ使用を基本としている。排泄パターンに応じて定期的及び随時に気配や訴えに対応、側面的な自立支援に努めている。	排泄をチェックしながら、適宜トイレ誘導をしている。リハビリパンツを使用し、夜のみポータブルトイレを使用する利用者もある。トイレはその人の状態に応じて、自動洗浄と手動洗浄を使い分けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄リズム確認した上で食生活を工夫して、整腸に努めている。トイレでの排泄時には、必要に応じて腹部マッサージ等、自然な排泄へと繋げている。又体操や歩行練習等、ご本人の出来る方法で参加して頂き、日課となっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特別な事情のない限り、全員毎日入浴している。清潔保持、血液循環の向上及び爽快感等、を視野入れた中で実施しているものの、毎日の日課として、入浴を楽しみにされている。又気分転換にも繋がっている。	病状が悪い人を除き、全員が毎日入浴できるように順番を決めている。浴槽は普通浴槽であるが、障害者やADLの低下している利用者でも、腰かけてから中に入れるスライド式の入浴補助器具が設置されており、安全・安心に入浴ができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	思い思いの過ごし方がして頂けるように、その日のその人の過ごし方を優先している。日中は出来るだけ楽しみな時間を共にして、夜間の安眠に繋がったりする中で、個々の眠りに合わせた就寝、起床へと側面的に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋にて、薬効、薬害、服用方法等を確認、全職員の認識を深めている。又日常生活の関わりの中で微妙な変化を察知する視点を持ち、日々関わるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や過去の生活の仕方を把握する中で、好みや個々の能力に応じた家事を選び自信の回復、自信の喚起へと繋げている。家事を分担し協働することが大家族の中での役割意識、連帯感、達成感に繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外気浴や散歩を日課としている。近隣の方とのふれあいや、季節を感じて頂く機会となっている。地域の行事や保育園、幼稚園等の行事も外出や交流、情操等の良い機会となっている。	天気さえ良ければ始終散歩に出かけたり、玄関前の椅子でくつろいでいる。散歩時には、そこで出会った地域の人たちと気軽に話合っている。時にに応じてドライブや外食にもあちこちと出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人や御家族の意向に沿って対応させて頂いている。小遣い程度を自身で管理されている方もみえるものの、希望されるものを献立に加えたりする中では使い道もなく、自身で管理しているという満足感を持って頂いている状況である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族や知人との交流を大切に頂けるよう、連携を密にすることで、活発な交流が可能となるように側面的な支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、リビング等の共同スペースは邪魔にならないような音量でのBGMを流し柔らかな空間としている。玄関や廊下、居間には季節行事等、個々の思い出の写真や作品が掲示しており、満足気に眺めては会話の糸口にも繋がっている。	利用者は、ほとんどの時間をリビングで過ごしており、休みたい時には自室に行かれる。リビング自体は明るい設計であり、壁や棚にはレクリエーション時に作った手芸品等が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング等はふれあい、交流を楽しむ空間として、ソファでは親しい方とおしゃべりや御家族、知人の方と過ごされたりと家族的な雰囲気の中で自由に寛いでいられる。独りになりたい時には廊下のソファ、と思いいに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだこだわりのものを個別に使用して頂いている。ご本人が違和感なく、落ち着いた気持ちの中で過ごして頂けるような居室作りを、ご本人や御家族と十分話し合いながら実現している。	個室のベッド、たんす、椅子は事業所の備品であるが、その人の体の動き方によってベッドの位置を変えている。閉じこもり防止上、TVは個室に置いていないが、利用者それぞれの好みに応じた室内になっている。夏冬の着替えは家族に対応してもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活すべてにおいて、個々の出来るところ、出来ないところの詳細を把握する中で、状態に応じた側面的な支援をしている。残存機能を含めた身体機能を勘案し、個々の動きに合わせた動線の確保にも努めている。		